

令和6年能登半島地震 金沢市内の斜面災害調査報告

京都大学防災研究所 斜面未災学研究センター
土井一生

調査日： 2024年1月14日(日)

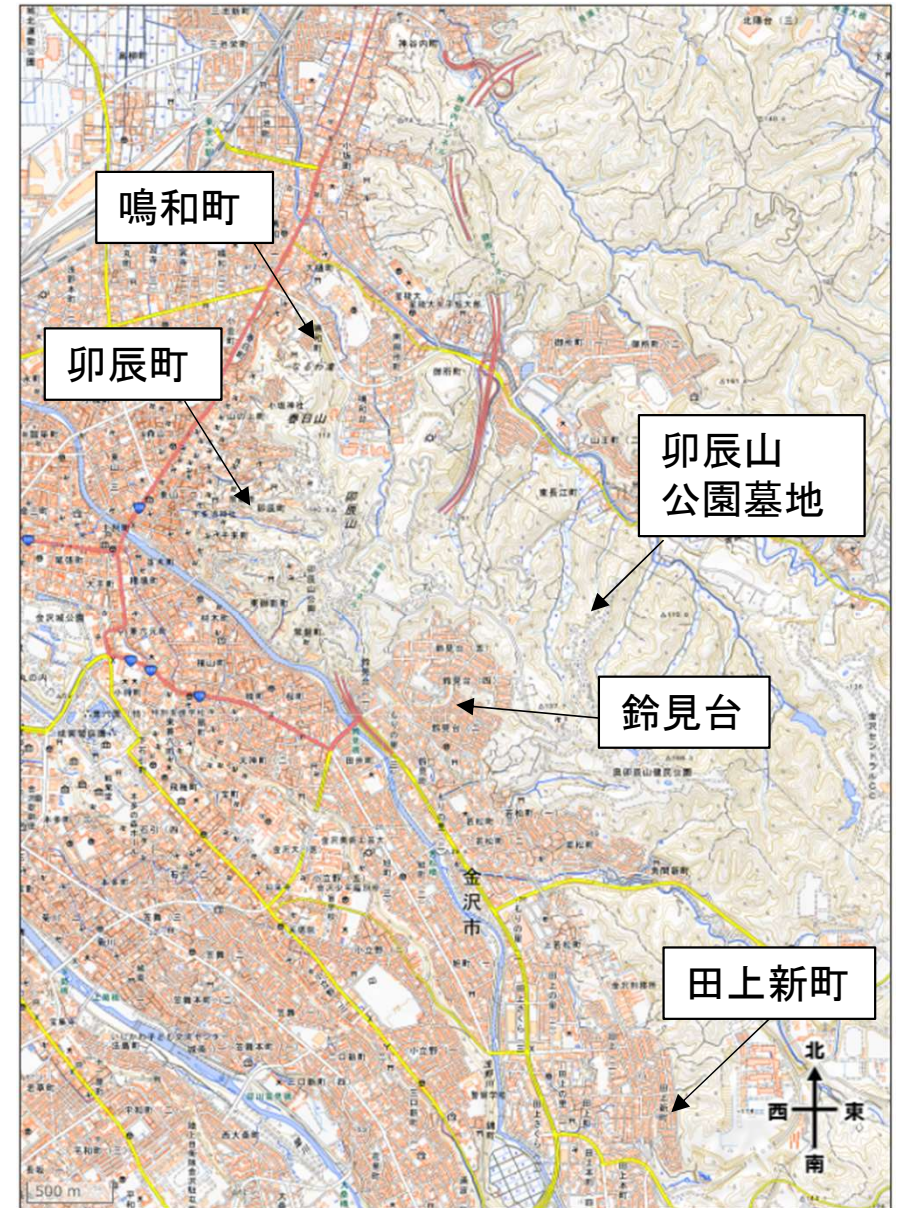
令和6年能登半島地震において、金沢市内では震度5弱(弥生)から震度5強(西念)の揺れを記録した。踏査した金沢市内の斜面災害は、他報告等の災害も踏まえて、下記の3タイプに大別された。

1. 野町断層・森本断層上盤側の地すべり地形における地すべり性の変位
2. 谷埋め盛土の崩壊、変状
3. 腹付け盛土・擁壁の崩壊、変状

※ 本報告は速報的なもので後日の追加調査で記載が変更される場合があります。

謝辞： 地理院地図および「今昔マップ」、金沢市まちづくり支援情報システムを参照しました。文部科学省による「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)」の支援を受けました。記して感謝します。

本調査の調査地



令和6年能登半島地震において犠牲になられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

野町断層・森本断層上盤側の地すべり

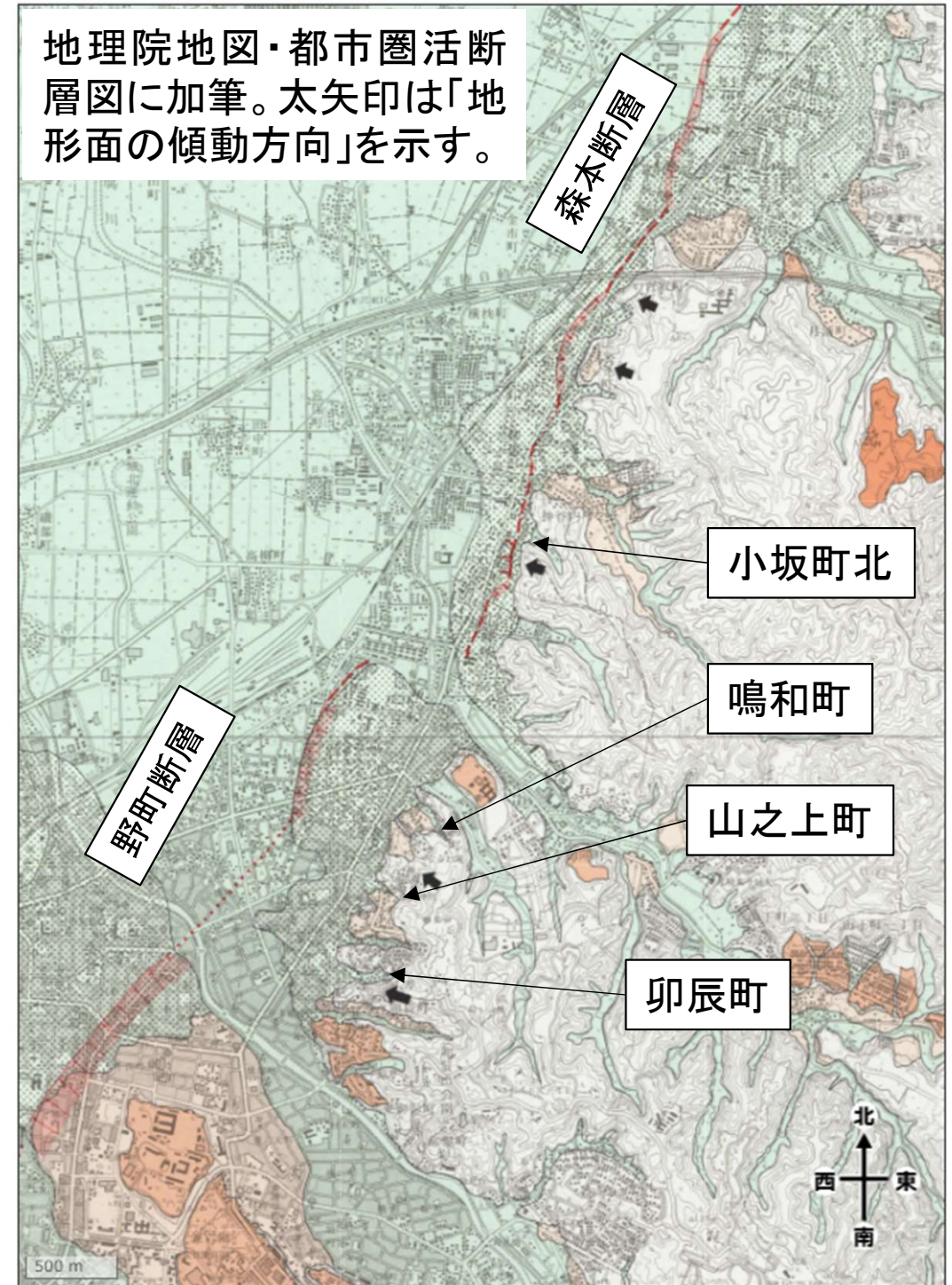
野町断層上盤側において地すべり地形を呈する鳴和町、卯辰町で斜面災害調査をおこなった。

鳴和町(次頁に調査結果)においては、開口亀裂・圧縮亀裂や家屋の変形が見られ、長さ100 m、幅50 m程度の地すべり性の変状があったことが示唆された。一方、滑落崖上方に線状凹地を同定することができたが、踏査できた範囲において、変状は見られなかった。

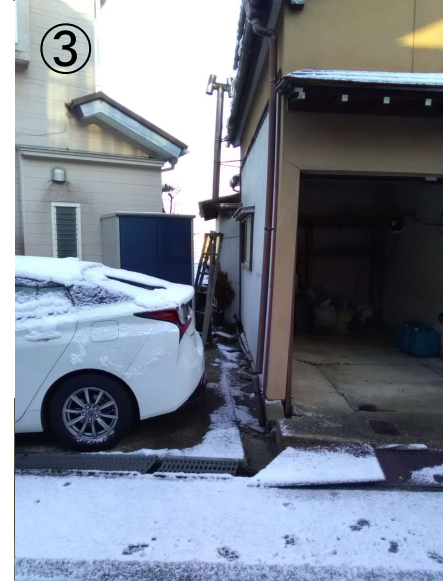
卯辰町においては、灯籠の転倒などが見られたが、踏査範囲(主として卯辰町ハ、チ)では斜面の変状は確認できなかった。

テレビ石川による1月14日の報道によれば、山之上町において擁壁の破損が見られ、地すべりの危険性が考えられるため13日に避難指示が出ているとされている。また、調査地のほか、小坂町北で地震後に金沢市ホームページにて「断水又は水の出が悪く」なっていると記述がある。

地理院地図・都市圏活断層図に加筆。太矢印は「地形面の傾動方向」を示す。



野町断層上盤側の地すべり



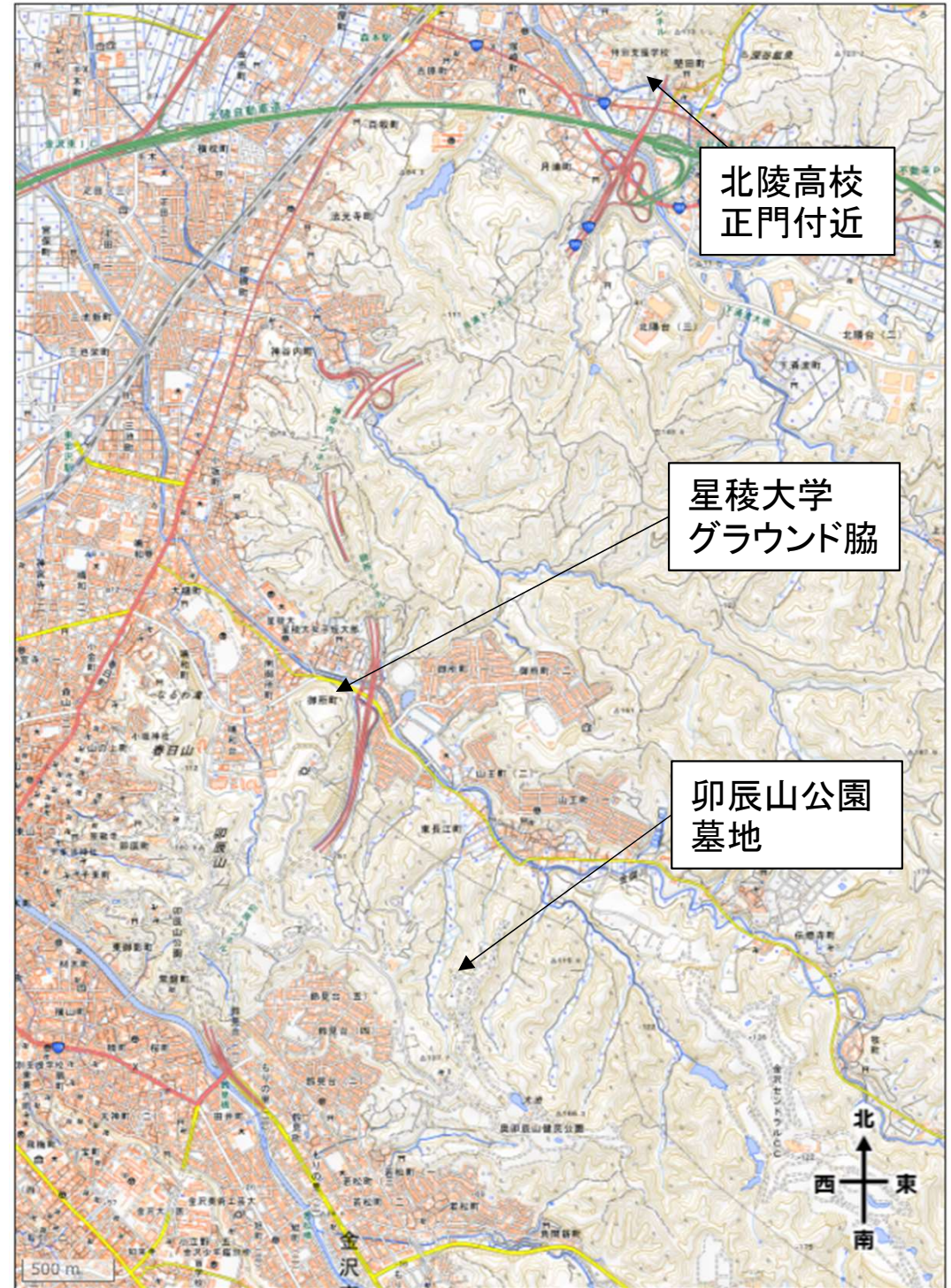
谷頭の谷埋め盛土の崩壊

卯辰山公園墓地、星稜大学グラウンド脇、北陵高校正門付近において大規模な斜面崩壊が確認されている。

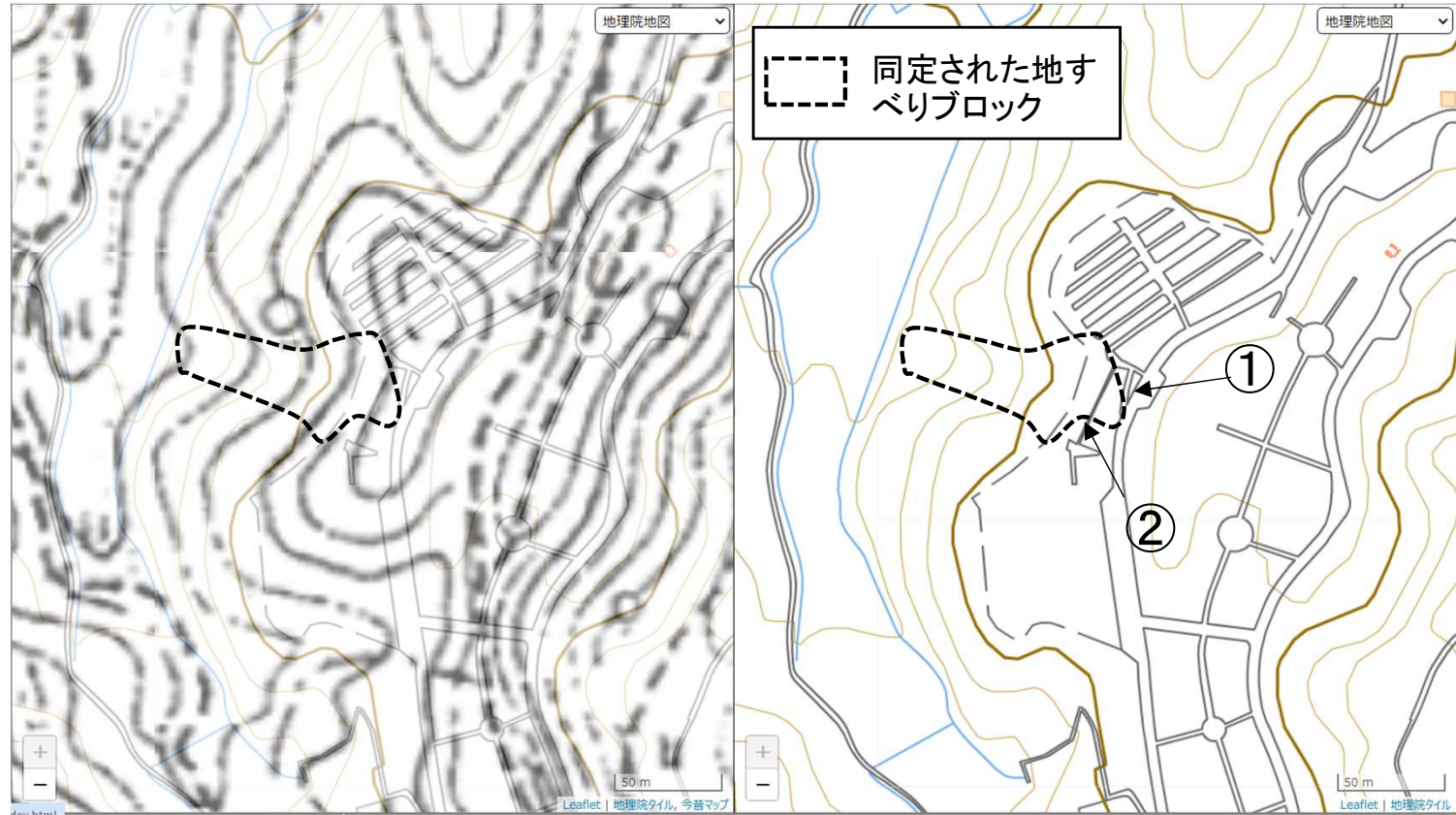
卯辰山公園墓地(次頁に調査結果)においては、墓地の整地のために谷頭が盛土されていることが窺え、その部分が幅 30-40 m 程度にわたって崩壊したと示唆される。

また、石川・安田(2024)でも報告されているように、北陵高校正門付近の斜面崩壊は、旧版地形図との比較(下図)から谷埋め盛土の崩壊と考えられる。

今昔マップ on the web
において1930年(今昔
マップでの表記)と現
在の地形図を重ね合
わせた図



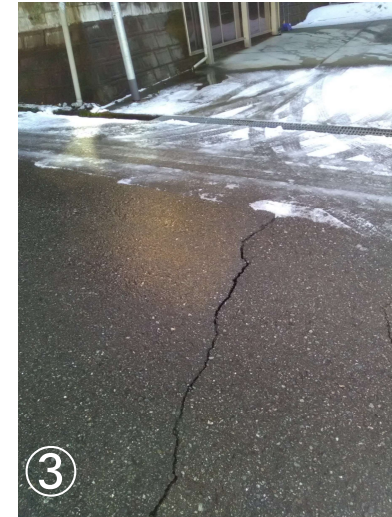
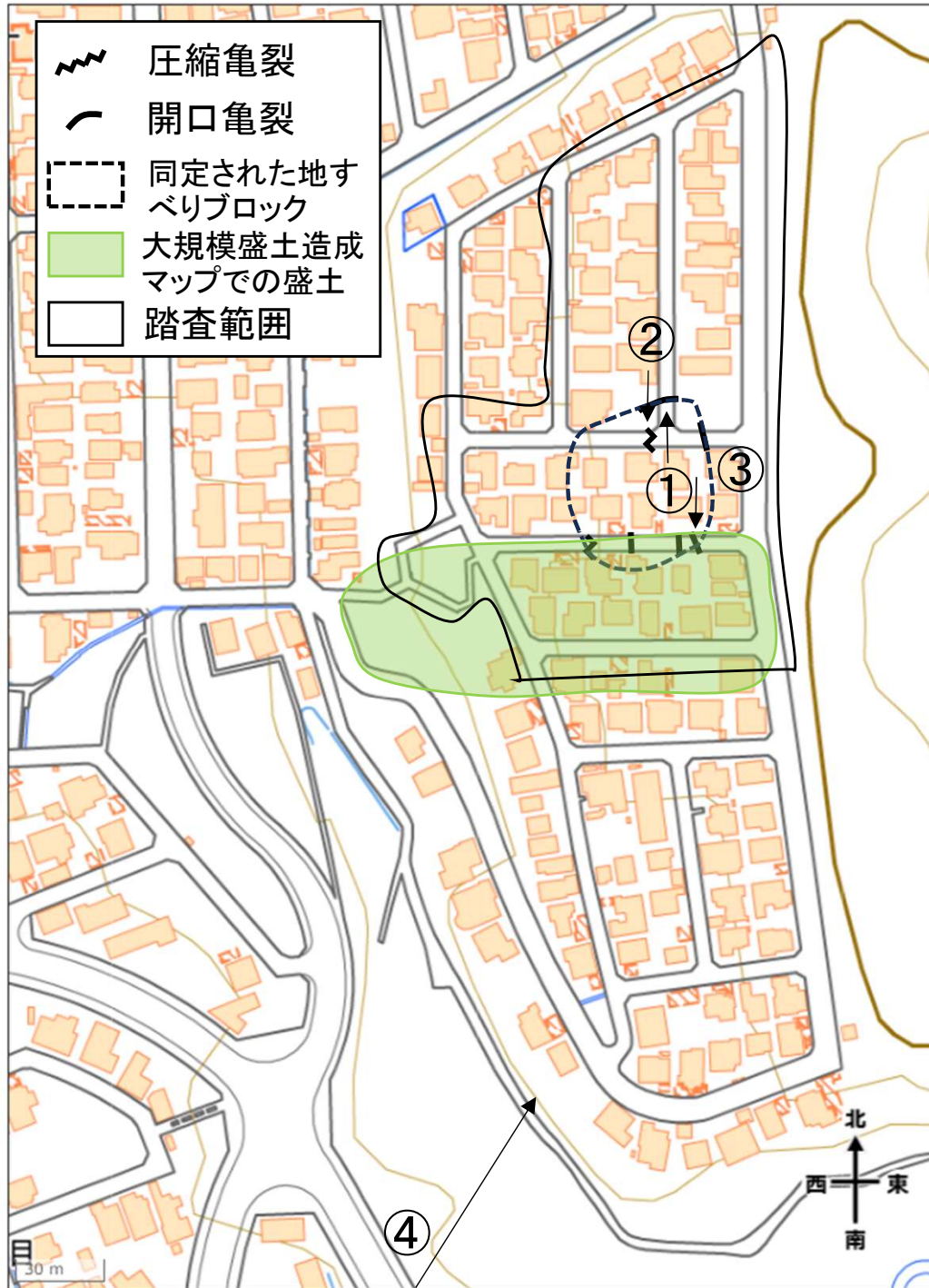
谷頭の谷埋め盛土の崩壊



今昔マップ on the web
において1930年(今昔
マップでの表記)と現
在の地形図を重ね合
わせた図

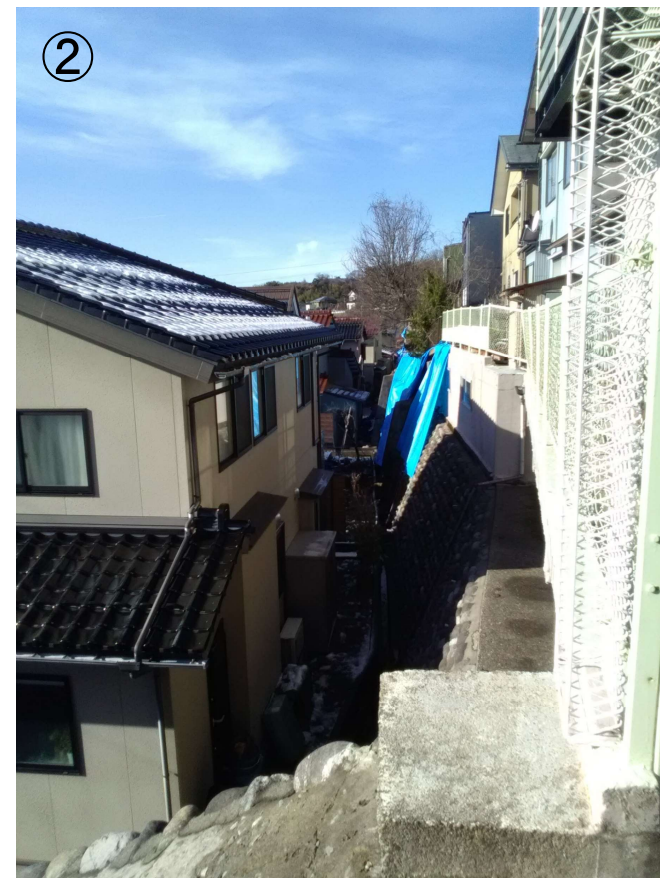


谷頭の谷埋め盛土の変状



斜面の住宅3軒が大きく崩落した田上新町においては、崩落現場から200 m程度北で小さくとも幅50 m、長さ50 mの範囲で地すべり性の変状が窺えた。この領域は、大規模盛土造成マップにおいて盛土として記されている領域の北隣にあたるが、現在や1930年の沢の位置を考慮すれば、今回変状が見られた領域も谷埋め盛土と示唆される。

腹付け盛土・擁壁の変状



鈴見台においては、
腹付け盛土・擁壁の
変状が生じていること
が示唆された。
(調査ではブルーシート
による養生状態を確
認したのみ)

